



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	巻頭言
Author(s)	大竹, 政美
Citation	教授学の探究, 28
Issue Date	2011-02-18
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/44876">http://hdl.handle.net/2115/44876</a>
Right	
Type	bulletin (other)
Additional Information	



Instructions for use

# 巻 頭 言

大 竹 政 美

教育の目標が社会において生活する個人としての自律と自立であるとする見解（須田勝彦）に同意しよう。

今日、科学・技術は、社会や人間生活の全体にますます強い作用を及ぼすようになっている。「科学・技術とどのように付き合っていくべきか」ということを、現代人は考えないわけにはいかないのである。

池内了が言うように、「科学者・技術者と市民の連携」が不可欠であり、「社会が何を採用し何を採用しないかを自律的に考え決定する、真の意味での民主主義」が培われなければならない。科学者・技術者には、専門家としての知識を活かして科学・技術の使い方にも意見を述べる社会的責任があり、市民は、科学・技術の中身に精通し、あるべき姿を科学者・技術者に注文をつけられる力を身につけねばならない、というわけである。

これを教育の課題として具体化するにはどうしたらいいだろうか。結局のところ、「科学する欲望を支える研究の自由の原理と、それを抑える制約の原理について、科学の実態と本質に即して考えること」（櫛島次郎；傍点引用者）ができるように教えればよろしい。

本号では、科学的リテラシーの諸相のうち、科学的概念・法則の理解に関する研究と、科学の社会的役割・影響の理解を目指す試みを示すことができた。